

2019年の 主な世界の原子力発電 開発動向



2020年3月

JAIF 情報・コミュニケーション部

<世界全体の動き>

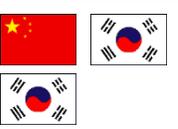
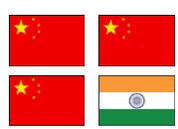
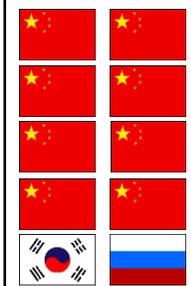
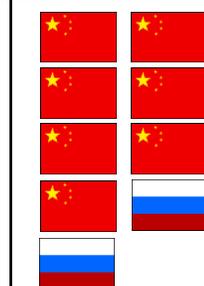
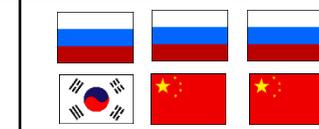
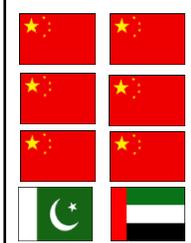
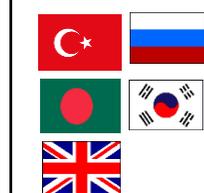
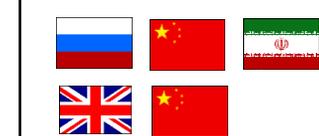
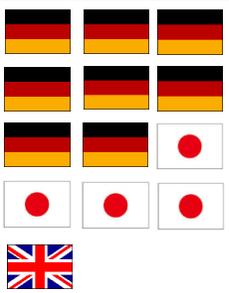
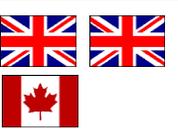
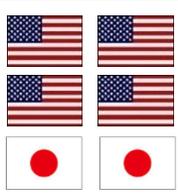
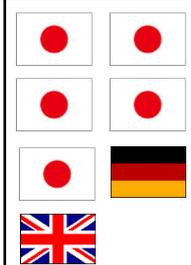
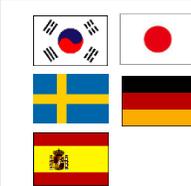
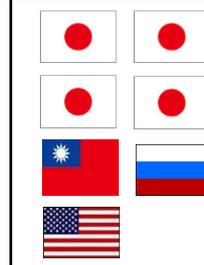
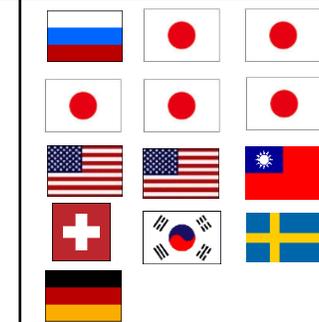
- 最近の世界の原子力開発動向
- (送電開始、建設開始、閉鎖)
- 2019年の世界の原子力開発状況 (1) (2)
- 世界の原子力発電所 送電開始と閉鎖の推移
- 世界の原子力発電所 着工基数の推移
- 世界の原子力発電量の推移
- 原子炉の運転年数別 平均設備利用率 (2014~18年)
- 世界の原子力発電所 運転中、建設中 (国別)
- 世界各国の原子力発電シェア
- 世界の原子力開発・導入国の推移
- 世界の原子力発電所の廃炉状況
- 世界の運転中軽水炉の運転年数順位
- 世界の運転中原子力発電所の運転年数
- 世界の主な高速炉開発の状況
- 世界の運転中・建設中の小型炉/SMR
- 近い将来展開が見込まれる主なSMR
- IEA, 原子力発電の急速な減少に警鐘
- 世界の原子力発電規模予測

<主な各国の動き>

- ロシア
- 中国
- 韓国
- イラン
- 米国
- スウェーデン、スイス、ドイツ
- 台湾
- 日本
- 英国
- フランス
- 中東欧
- 新規導入国
- 世界の原子力開発状況：新規導入国 (表) (グラフ)



最近の世界の原子力開発動向

2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
 <p>送電開始</p>									
 <p>建設開始</p>									
 <p>運転終了 /閉鎖</p>									

2019年の世界の原子力開発状況(1)

～閉鎖が送電開始を上回る～

送電開始・6基

原子炉名	炉型	ネット出力(万kW)	国	着工開始月日	送電開始月日	建設期間
新古里4	APR1400	101.1		2009年8月19日	4月22日	9年8か月
ノボノロネジII-2	VVER-1200	108.5		2009年7月12日	5月1日	9年9ヵ月
台山2	EPR	166.0		2010年4月15日	6月23日	9年2か月
陽江6	ACPR1000	100.0		2013年12月23日	6月29日	5年6か月
アカデミック・ロモノソフ1、2	KLT-40S	3.2×2基		2007年4月15日	12月19日	12年8か月
合計	6基	482	—	—	—	—

建設開始・5基

原子炉名	炉型	ネット出力(万kW)	国	着工開始月日
クルスクII-2	VVER-TOI	111.5		4月15日
漳州	HPR1000	112.6		10月16日
ブシェール2	VVER-1000	91.5		11月10日
ヒンクリー・ポイントC-2	EPR	163.0		12月12日
太平嶺1	HPR1000	111.6		12月26日
合計	5基	590.2	—	—

出典: IAEA PRIS, JAIF調べ

2019年の世界の原子力開発状況(2)

～閉鎖が送電開始を上回る～

閉鎖・13基

原子炉名	ネット出力 (万kW)	国	閉鎖月日	運転年数	閉鎖理由
ビリビノ1	1.1		1月14日	45年	代替電源確保の見通しがついたため
玄海2	52.9		4月9日	38年	特重施設設置場所等を総合的に勘案
ピルグリム1	67.7		5月31日	46年	経済性
金山2	60.4		7月15日	40年	国の原子力政策
TMI1	81.9		9月20日	45年	経済性
福島第二1～4	106.7×4基		9月30日	1号機:38年 2号機:36年 3号機:34年 4号機:32年	地域のご意向等を総合的に勘案
ミューレベルグ	37.3		12月20日	48年	政治・規制面の不確実性
月城1	66.1		12月24日	36年	国の原子力政策
フィリップスブルグ2	140.2		12月31日	35年	国の原子力政策
リングハルス2	90.7		12月31日	45年	経済性
合計	13基・1,025.1	——	——	——	——

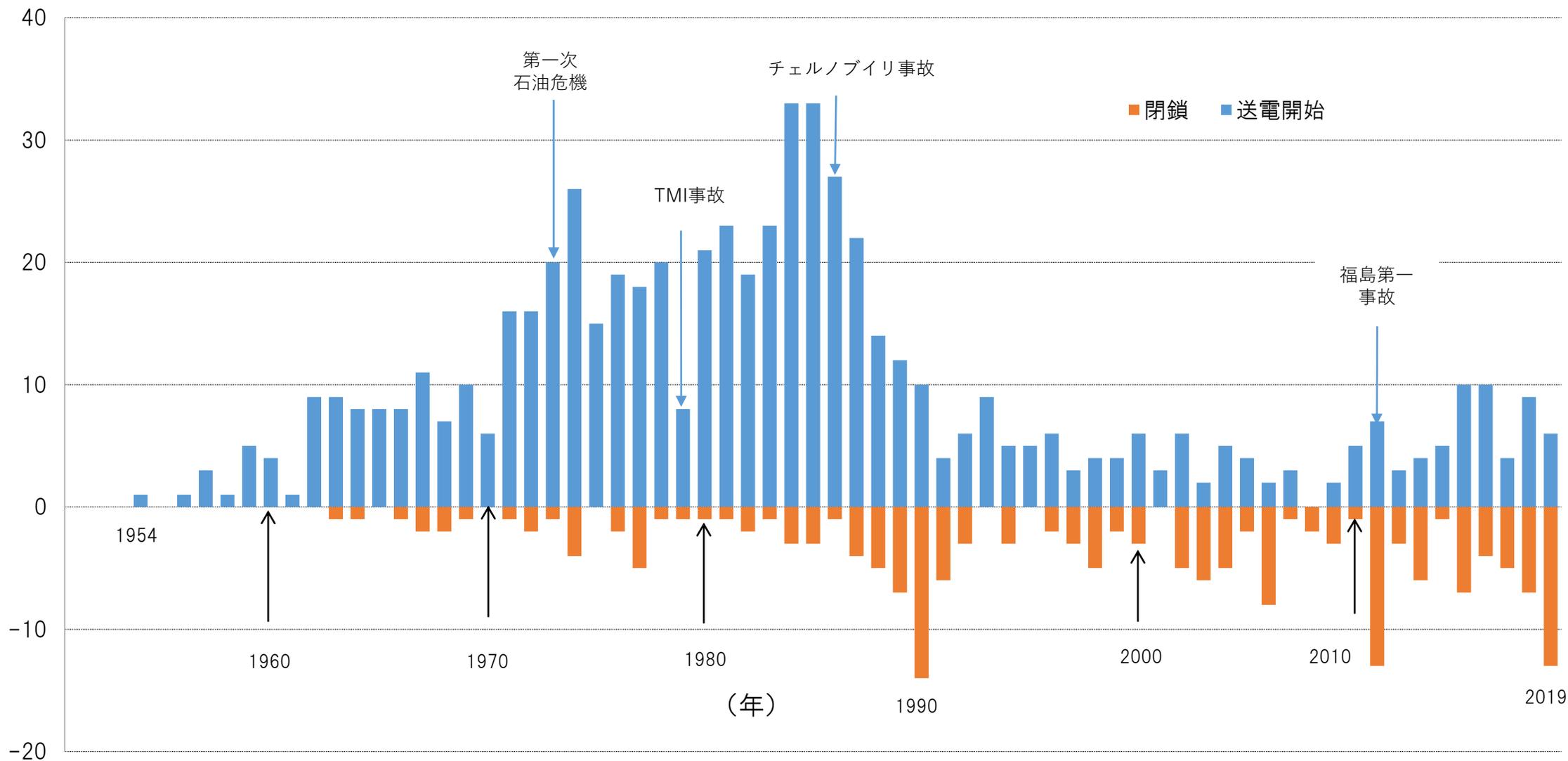
※運転年数は初送電から閉鎖までを計算

出典: IAEA PRIS, JAIF調べ



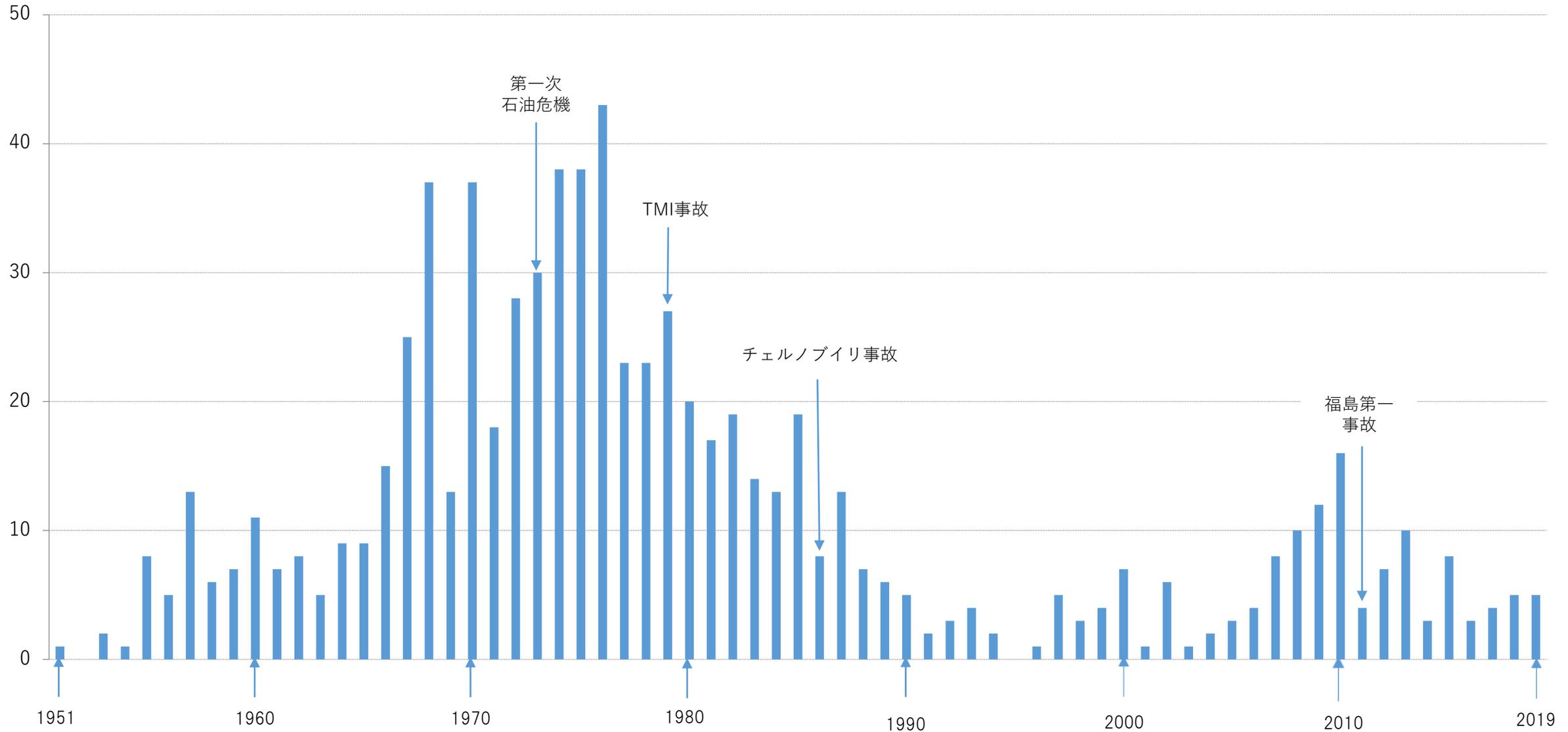
世界の原子力発電所 送電開始と閉鎖の推移

原子炉数 (基)



世界の原子力発電所 着工基数の推移

原子炉数 (基)

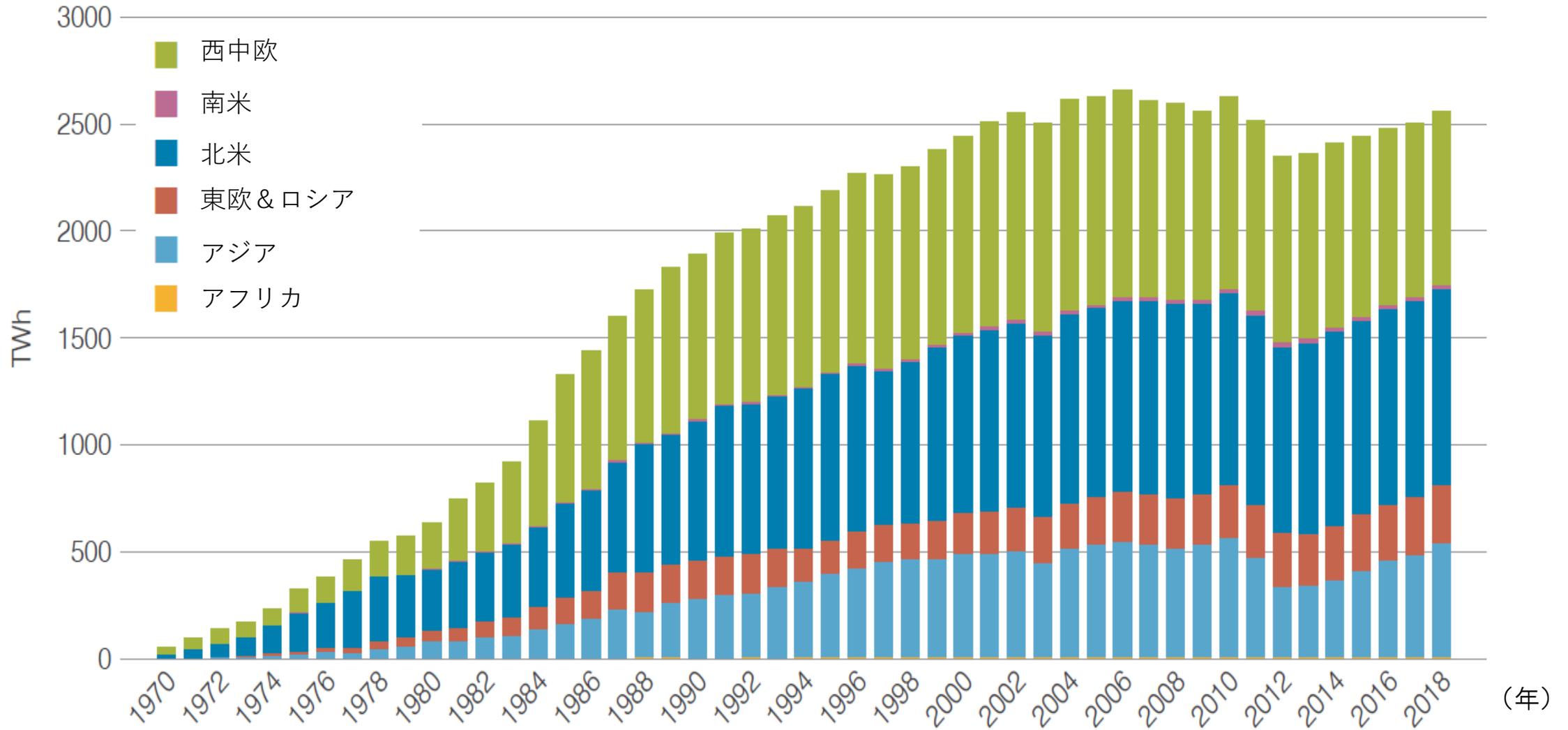


出典: IAEA PRISに基づき当協会作成



世界の原子力発電量の推移

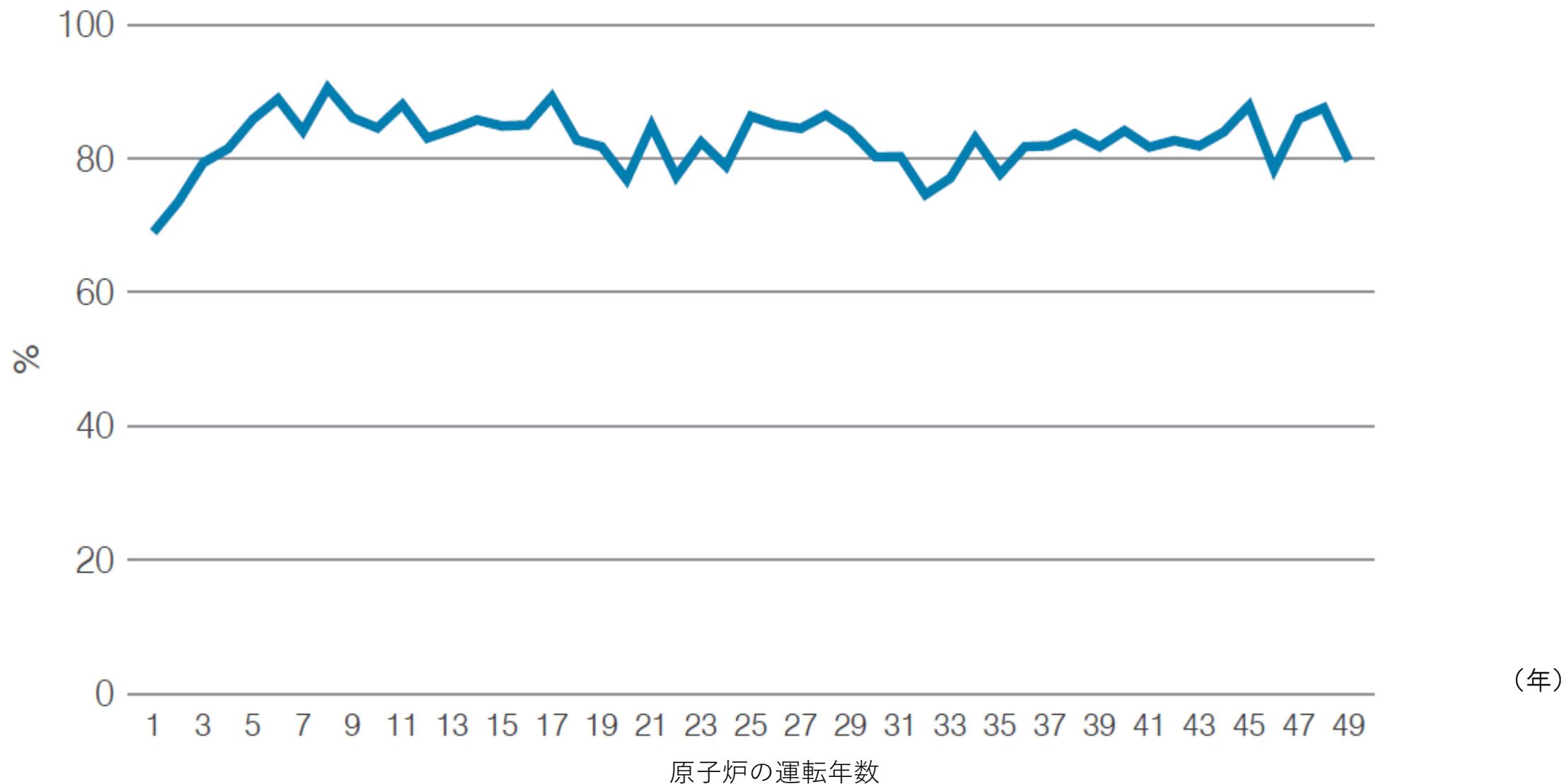
1TWh = 10億kWh



2018年の原子力発電量は2兆5,630億kWh。6年連続で発電量は増加

出典: WNA “World Nuclear Performance Report 2019”

原子炉の運転年数別 平均設備利用率 (2014~18年)



世界の原子力発電所 運転中 (国別)

(万kW)

12000

2020年1月1日現在

運転中：31か国・地域
442基 (約3.9億kW, ネット出力)

10000

8000

6000

4000

2000

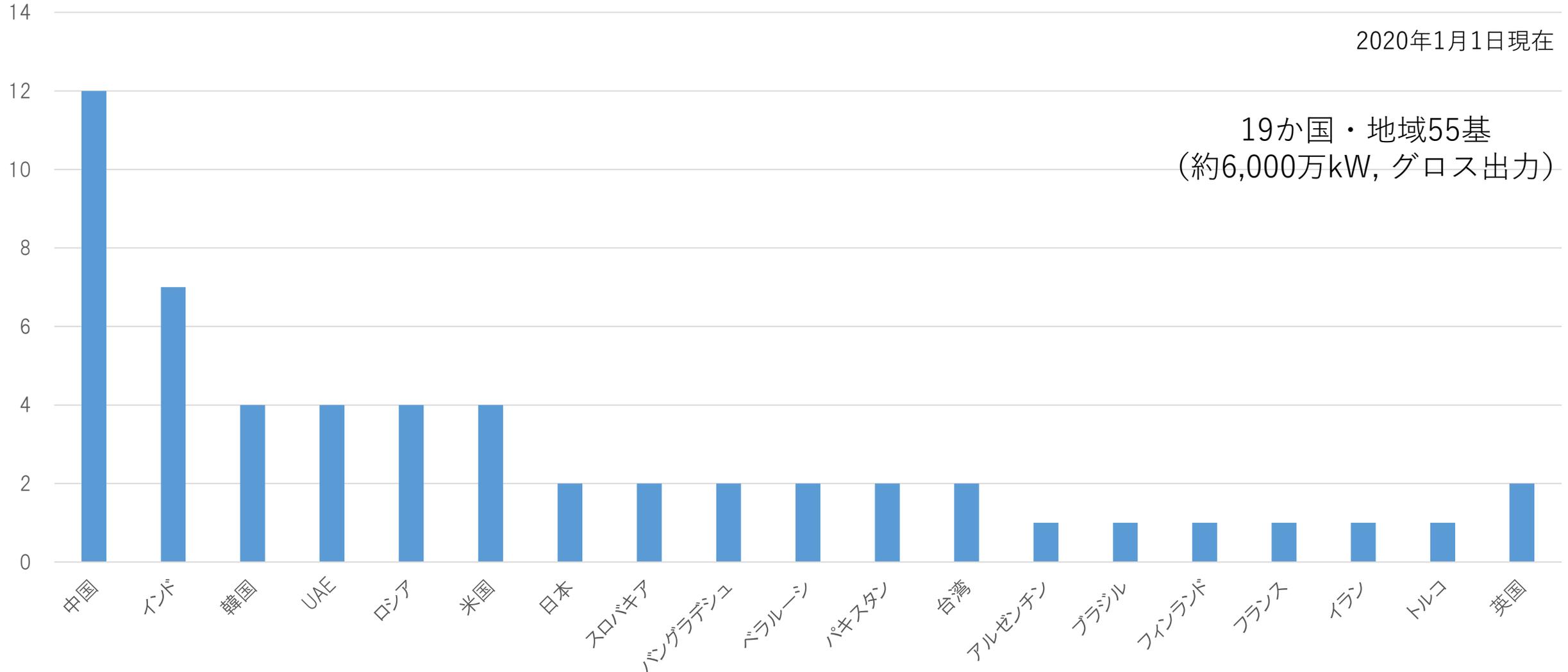
0



出典：WNA資料に基づき当協会作成

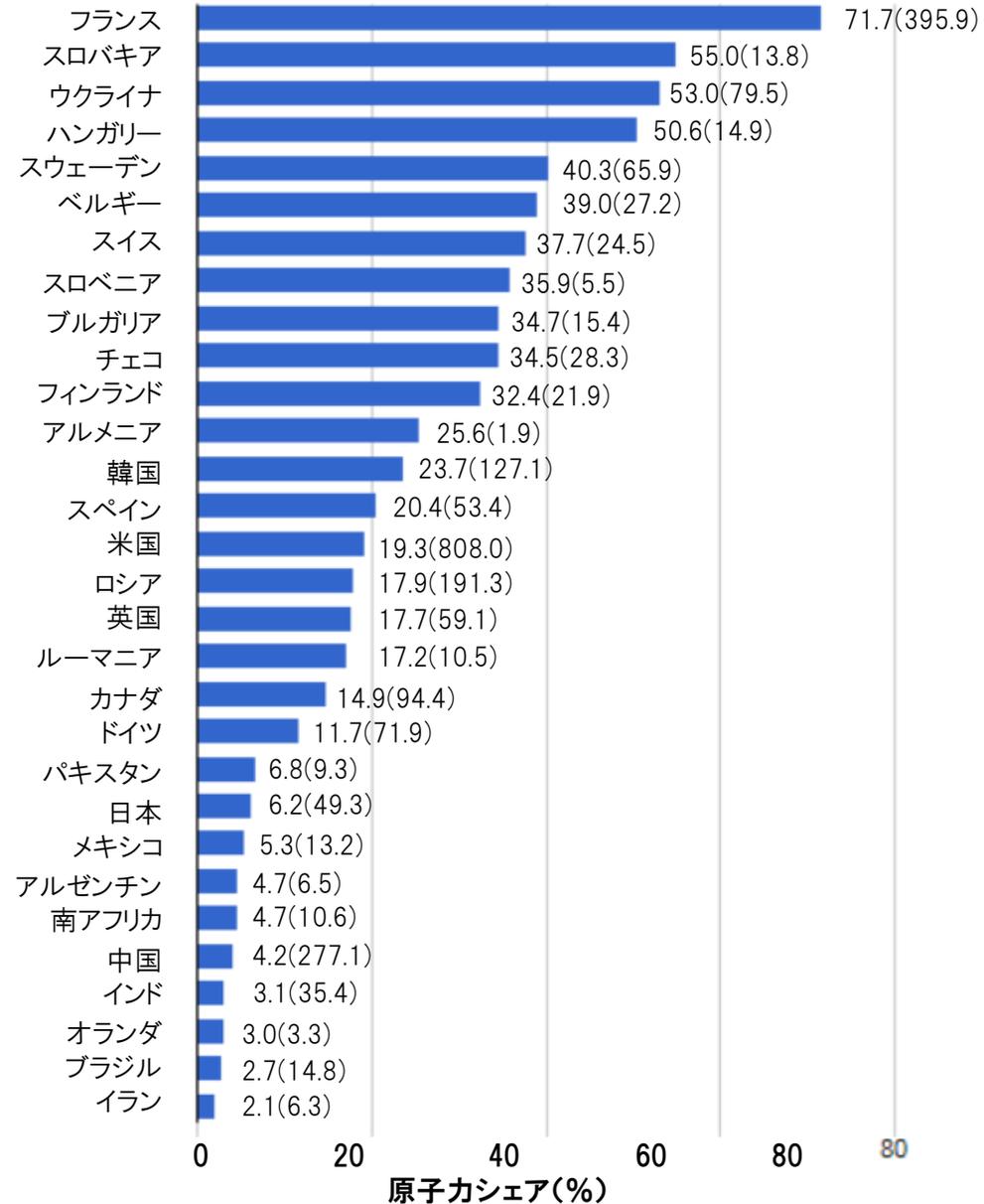
世界の原子力発電所 建設中 (国別)

原子炉数 (基)



出典: WNA資料等に基づき当協会作成

世界各国の原子力発電シェア



2018年実績値

()内は、2018年の原子力発電電力量
単位はTWh, 1TWh = 10億kWh

※台湾の原子力発電量は26.7TWhで、
原子力シェアは11.4%

出典: IAEA PRIS



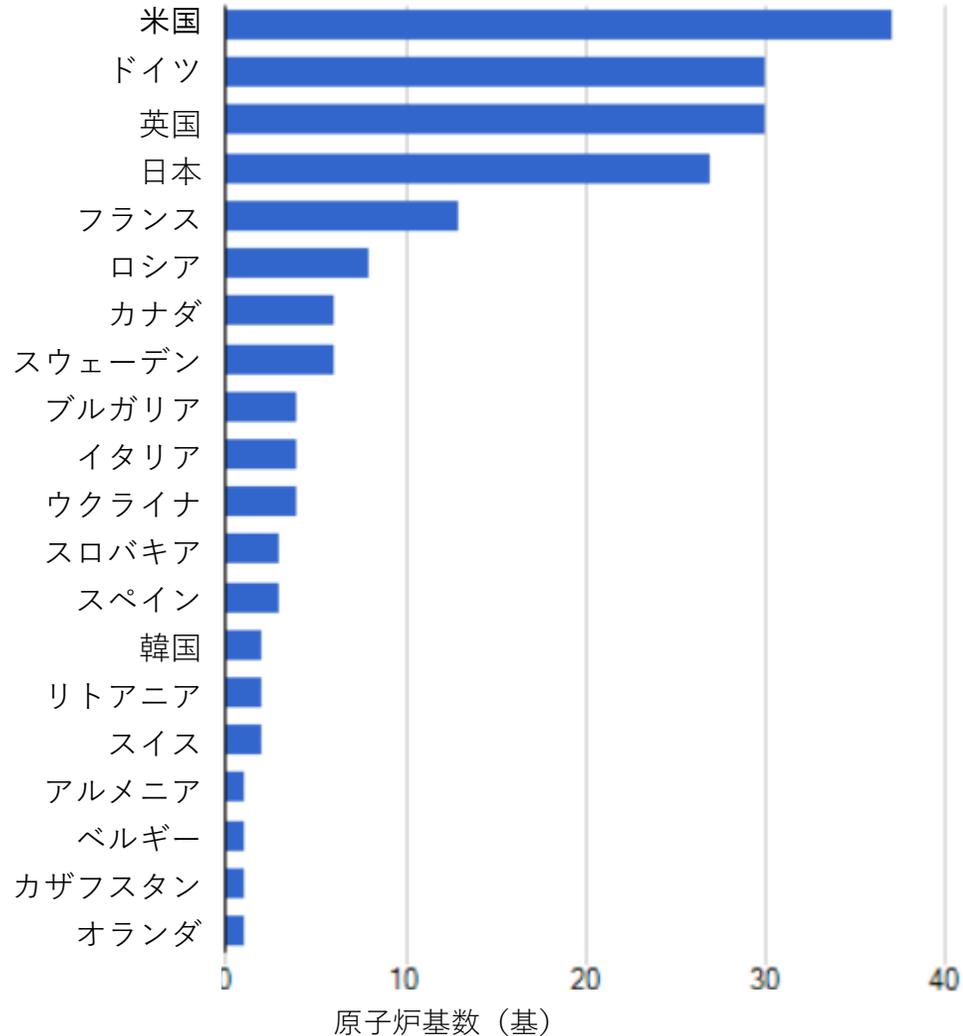
世界の原子力開発・導入国の推移

区分	年代 / 年平均着工基数 / 新規原子力発電開発・導入国（最初の発電炉発電開始年）		
草創期 ↓ 成長期	1950年代	7基/年	3国 ソ連(ロシア)(1954) 英(1956) 米(1957)
	1960年代	14基/年	9国 仏(1964) 伊(1964) 日本(1966) 独(1967) 加(1968) 印(1969) オランダ(1969) スペイン(1969) スイス(1969)
(成長促進期) ↓	1970年代	31基/年	12国 パキスタン(1972) スロバキア(1972) スウェーデン(1972) ソ連(カザフスタン)(1973) アルゼンチン(1974) ブルガリア(1974) ベルギー(1975) フィンランド(1977) ソ連(アルメニア)(1977) 韓国(1978) 台湾(1978) ソ連(ウクライナ)(1978)
	1980年代	14基/年	6国 ハンガリー(1983) ソ連(リトアニア)(1983) スロベニア(1983) 南アフリカ(1984) ブラジル(1985) チェコ(1985)
減速期 (停滞期) ↓	1990年代	3基/年	3国 メキシコ(1990) 中国(1994) ルーマニア(1996)
	2000年代	5基/年	—
(復活期?) ↓	2010年代	5基/年	1国 イラン(2011)
	2020年代		数国 UAE(2020) ベラルーシ(2020) Bangladesh(2023) トルコ(2023) ヨルダン サウジアラビア ウズベキスタン ポーランド ……
新規 導入国時代			

(備考) 年平均の新規着工基数はIAEA PRISによる

世界の原子力発電所の廃炉状況

原子炉数 合計：187基



	国・地域名	基	万kW
アジア 31基	日本	27	1711.9
	韓国	2	123.7
	台湾	2	120.8
欧州 99基	スウェーデン	6	322.8
	英国	30	471.5
	フランス	13	466.9
	ドイツ	30	1826.2
	スイス	2	37.9
	ベルギー	1	1.0
	オランダ	1	5.5
	スペイン	3	106.7
	ブルガリア	4	163.2
	スロバキア	3	90.9
	リトアニア	2	237.0
	イタリア	4	142.3
	旧ソ連 14基 (CIS等)	ロシア	8
ウクライナ		4	351.5
アルメニア		1	37.6
カザフスタン		1	5.2
北米 43基	米国	37	1654.2
	カナダ	6	214.3
	合計	187	8301.8

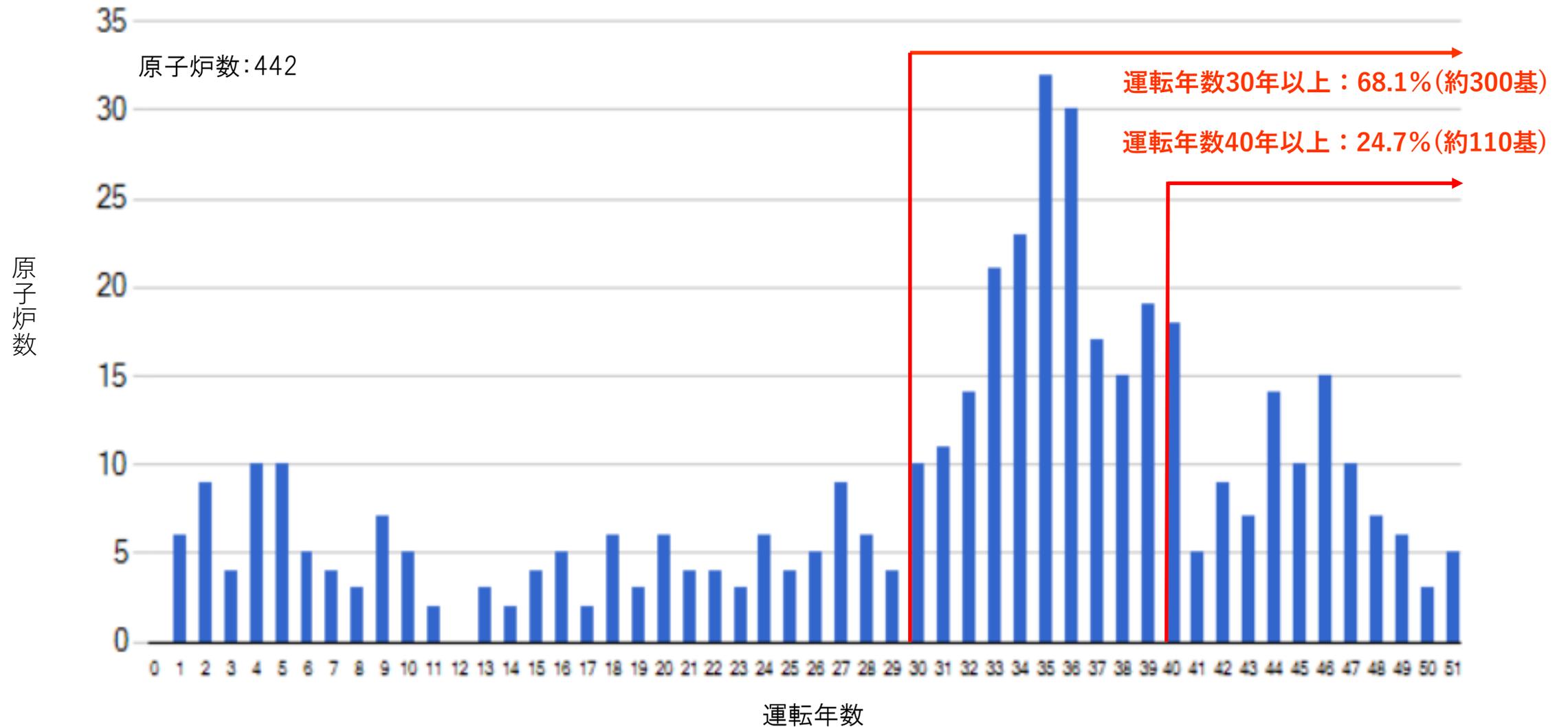
出典：IAEA PRIS（2020年2月26日現在），ネット出力

世界の運転中軽水炉の運転年数順位 ～昨年初めて運転年数50年超の原子炉が登場～

2020年3月1日現在

順位	国名	原子炉名	炉型	ネット出力 (万kW)	発送電開始	運転年月
1	インド	タラプール1	BWR	15.0	1969年4月1日	50年11ヵ月
2	インド	タラプール2	BWR	15.0	1969年5月5日	50年9ヵ月
3	スイス	ベツナウ1	PWR	36.5	1969年7月17日	50年7ヵ月
4	米国	ナインマイルポイント1	BWR	61.3	1969年11月9日	50年3ヵ月
5	米国	ロバート・E・ギネイ	PWR	58.5	1969年12月2日	50年2ヵ月
6	米国	ドレスデン2	BWR	85.0	1970年4月13日	49年10ヵ月
7	米国	H. B. ロビンソン2	PWR	74.1	1970年9月26日	49年5ヵ月
8	米国	ポイントビーチ1	PWR	48.5	1970年11月6日	49年3ヵ月
9	米国	モンティセロ	BWR	58.6	1971年3月5日	48年11ヵ月
10	カナダ	ピッカリング1	PHWR	51.5	1971年4月4日	48年10ヵ月
.						
参考	日本	高浜1	PWR	78.0	1974年3月27日	45年11ヵ月
		高浜2	PWR	78.0	1975年1月17日	45年1ヵ月
		美浜3	PWR	78.0	1976年2月19日	43年0ヵ月

世界の運転中原子力発電所の運転年数



出典：IAEA PRIS (2020年2月25日現在)

- ・運転年数は初送電から計算
- ・発電開始が2020年の場合は0年, 2019年の場合は1年, 2018年の場合は2年となる

世界の主な高速炉開発の状況

国	原子炉名	電気出力(MWe)	備考
ロシア 	BOR-60	12	1969年初臨界
	ベロヤルスク3 (BN600)	600	1980年より運転, 近年順調に運転
	ベロヤルスク4 (BN800)	800	2016年10月営業運転開始 2021年末までにフルMOX使用予定
	ベロヤルスク5 (BN1200)	1200	2025年着工予定, 2031年運転開始予定
	トムスク (BREST300)	300	2020年着工予定, 鉛冷却, 2026年の運転開始予定
	ディミトロフグラード (SVBR100)	100	鉛ビスマス冷却, 計画遅延
	ディミトロフグラード (MBIR)	150MWt (熱出力)	国際研究炉, 2015年9月建設開始, 2020年完成予定 (マルチ冷却材: Na, Pb, Pb-Bi, ガス)
中国 	高速実験炉 CEFR	25	2011年発電開始
	高速実証炉 CFR600	600	2017年着工 2023年運転開始予定
インド 	高速実験炉 FBTR	13	1985年運転開始
	高速原型炉 PFBR	500	2004年着工 2020年初臨界予定
フランス 	高速実証炉 ASTRID	600	2014年以来, 仏と日本は設計, 燃料, 安全, 原子炉技術等の研究開発を協力して実施, 2019年12月終了 2020年以降, 実用化に向けた研究開発を中心に継続予定
日本 	もんじゅ	280	日本政府は2016年12月, もんじゅの廃止を決定

出典: JAIF調べ, WNA

世界の運転中・建設中の小型炉/SMR

運転中

名前		電気出力 (MWe)	炉型	開発者
CNP-300		300	PWR	上海核工程研究設計院 (SNERDI), 中国核工業集団 (CNNC)
PHWR-220		220	PHWR	インド原子力発電公社(NPCIL)
EGP-6		11	LWGR (小型黒鉛減速軽水冷却炉)	ロシア物理エネルギー研究所 (IPPE), ドレジャーリ動力工学開発研究所 (NIKIET)
KLT-40S		35	PWR	OKBM社
RITM-200		50	一体型PWR	OKBM社

建設中

名前		電気出力 (MWe)	炉型	開発者
CAREM-25		27	一体型PWR	アルゼンチン原子力委員会(CNEA), INVAP社
HTR-PM		210	高温ガス炉	清華大学核能及新能源技術研究院(INET), 中国核工業建設集団(CNEC), 中国華能集団
ACPR50S		60	PWR	中国広核集団(CGN)

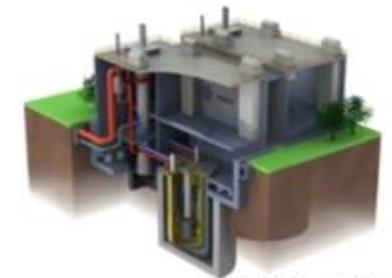
近い将来展開が見込まれる主なSMR

名前		電気出力 (MWe)	炉型	開発者
VBER-300		300	PWR	OKBM社
NuScale		60	一体型PWR	NuScale Power社+ Fluor社
SMR-160	 	160	PWR	Holtec社および SNC-Lavalin社
ACP100/Linglong One		125	一体型PWR	中国核動力研究設計院(NPIC)/中国核電工程(CNPE)/中国核工業集団(CNNC)
SMART		100	一体型PWR	韓国原子力研究所(KAERI)
BWRX-300		300	BWR	GE Hitachi社
PRISM		311	ナトリウム冷却高速炉	GE Hitachi社
ARC-100		100	ナトリウム冷却高速炉	ARCニュークリア社およびGE Hitachi社
Integral MSR		192	熔融塩炉	Terrestrial Energy社
BREST		300	鉛冷却高速炉	エネルギー技術研究所(RDIPE)
RITM-200M		50	一体型PWR	OKBM社
NUWARD		340	PWR	CEA, EDF, Naval Group社, TechnicAtome社



NuScaleの発電所イメージ
©NuScale Power社

PRISM



165 to 311 MW

先進型原子炉

©GE Hitachi社

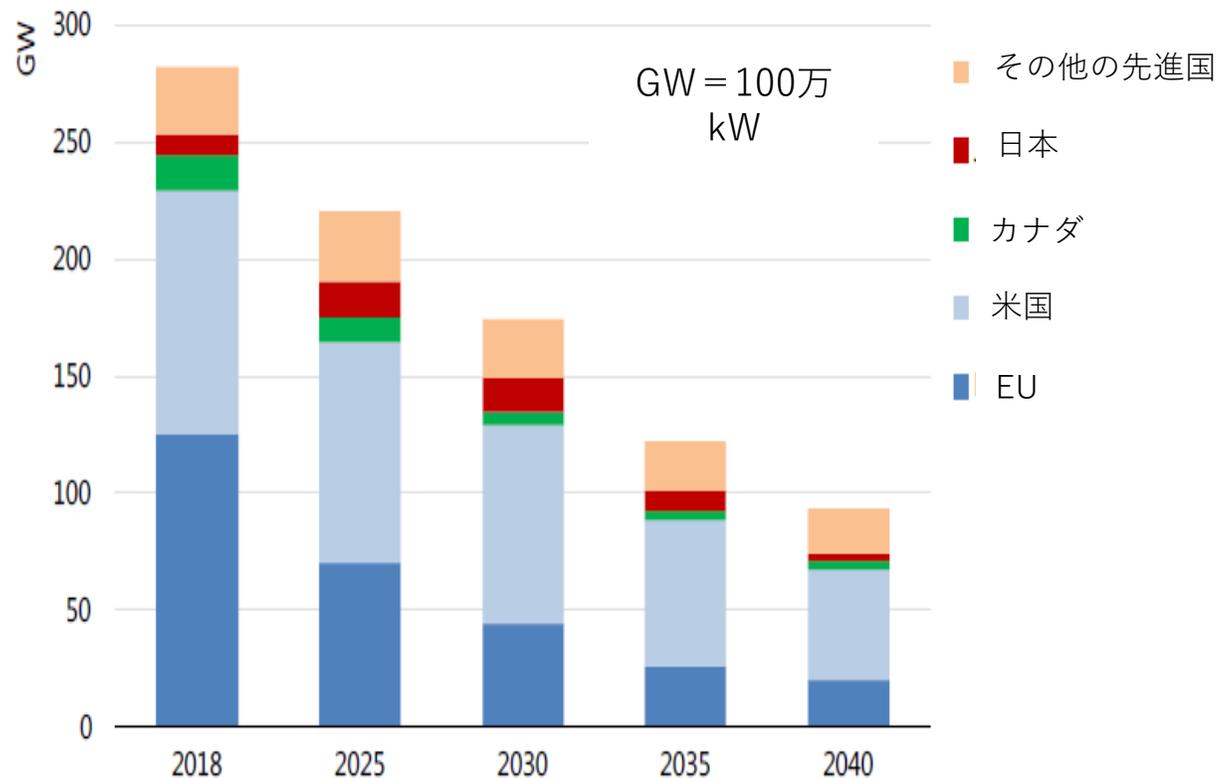
出典: WNA, JAIF調べ

- ✓ エネルギーの移行を世界中で進展させる上で原子力は不可欠
- ✓ 再生可能エネルギーやエネルギーの効率化、その他の革新的発電技術と同様、原子力は持続的なエネルギー供給や供給保証の促進といった目標の達成に大きく貢献できる



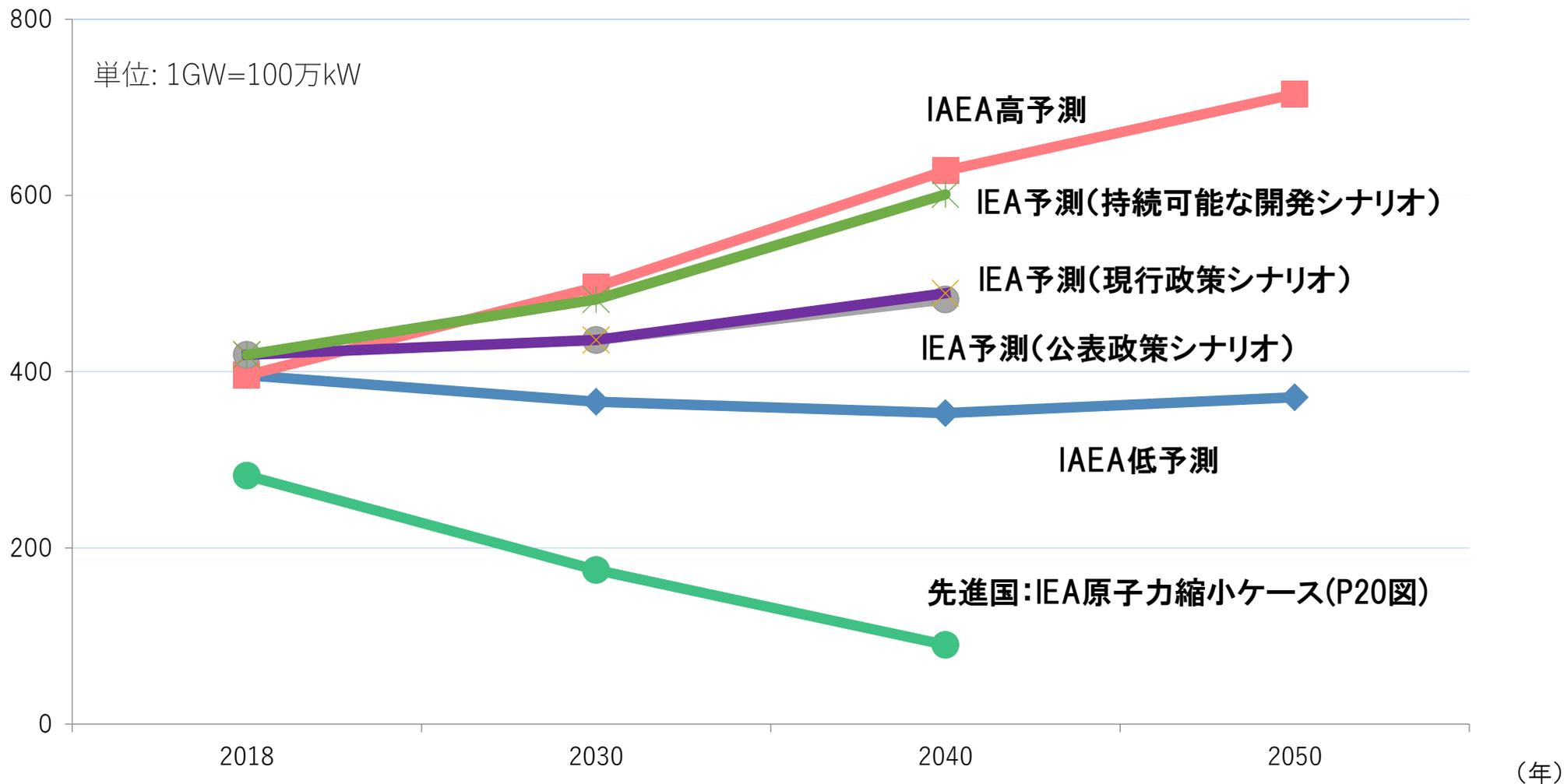
IEAのF. ビロル事務局長

先進国における運転中原子力発電設備容量の予測
(原子力縮小ケース)



先進国で既存原子力発電所の運転寿命延長や新規プロジェクト開発のためにさらなる投資が行われない場合、先進国の原子力発電設備容量は2040年までに2/3減少する

世界の原子力発電規模予測



- ・ 公表政策シナリオ (旧新政策シナリオ) : 最新のエネルギー政策や関連計画が実施されると想定
- ・ 現行政策シナリオ : 現在実施中の確定した施策のみが実施されると想定
- ・ 持続可能な開発シナリオ : パリ協定の達成に必要な施策が実施されると想定

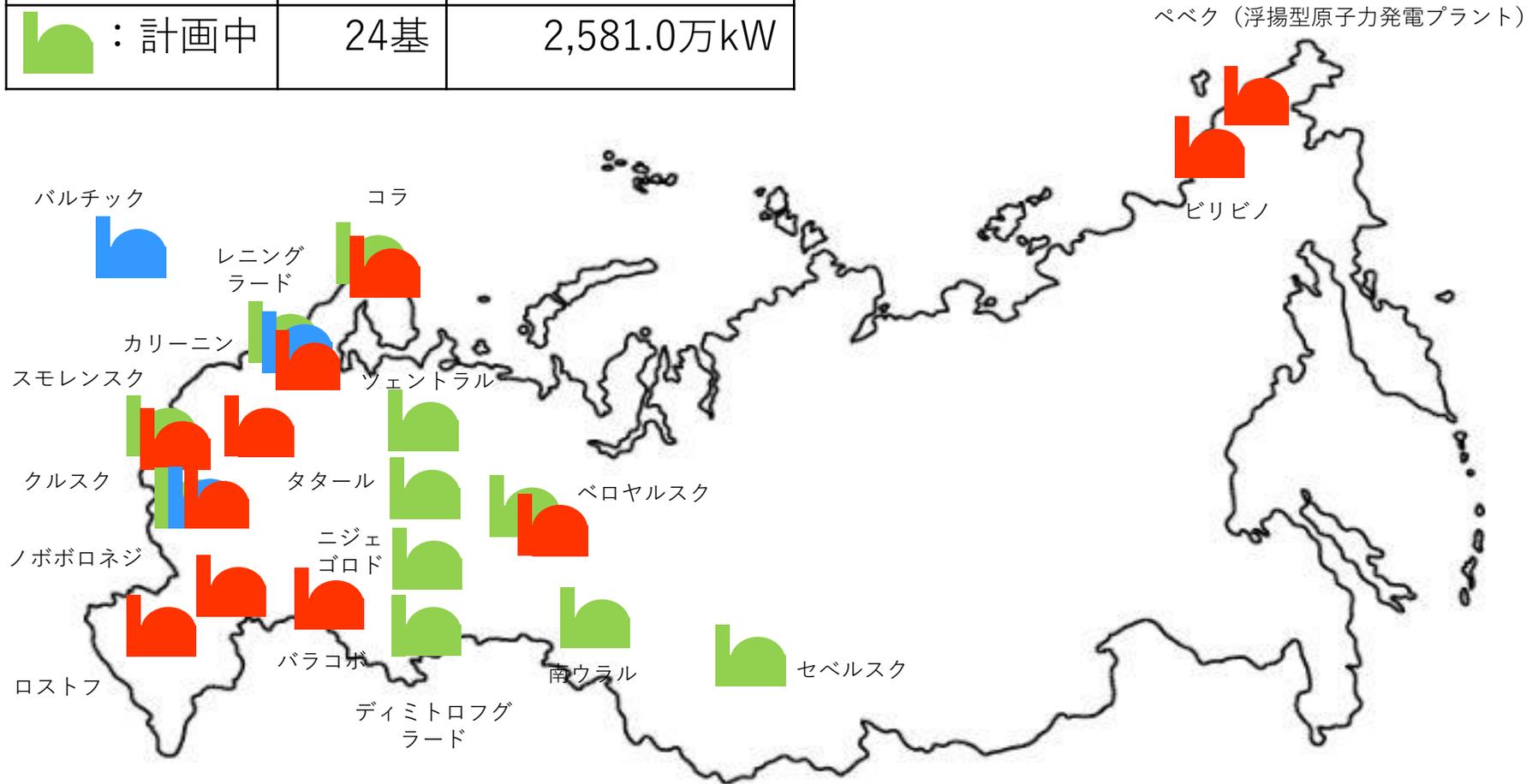
主な各国の動き



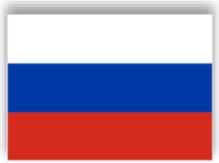


ロシアの原子力発電所

 : 運転中	38基	2,920.3万kW
 : 建設中	4基	490.3万kW
 : 計画中	24基	2,581.0万kW



出典: WNA HPに一部加筆

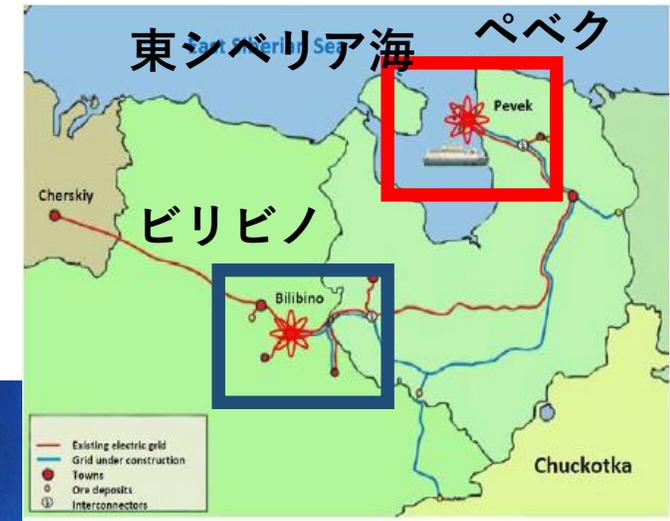


ロシア（3基が送電開始）



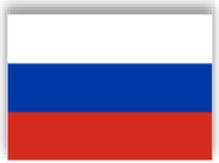
ロシアで開発されたVVER-1200（第3世代+）
「ノボボロネジII-2号機」（10月31日営業運転開始）
ベラルーシやバングラデシュ、トルコでも同設計を採用した
原子炉を建設中

© ロスエネロゴアトム



世界初のSMR炉「アカデミック・ロモノソフ」
（炉型KLT-40S, 3.2万kW×2基）
極北のペク港岸壁に係留して電熱を供給
ビリビノNPPsの代替電源として活用(12月19日送電開始)

© ロスアトム



ロシア（1基着工 1基閉鎖）



クルスク II -2号機（VVER-TOI, 第三世代+）の着工
（4月15日）

「VVER-TOI」は、VVER-1200の設計最適化版

© ロスアトム



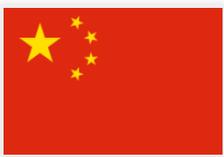
1号機が閉鎖されたビリビノ原子力発電所
ビリビノは元々鉱山開発で作られた町

© ロスエネルギーアトム

ビリビノ原子力発電所

	1号機	2～4号機
炉型	LWGR・EPG-6*	LWGR・EPG-6
ネット出力	11MWe	11MWe
運転開始	1974年	1975～77年
閉鎖	2019年1月14日	2021年末

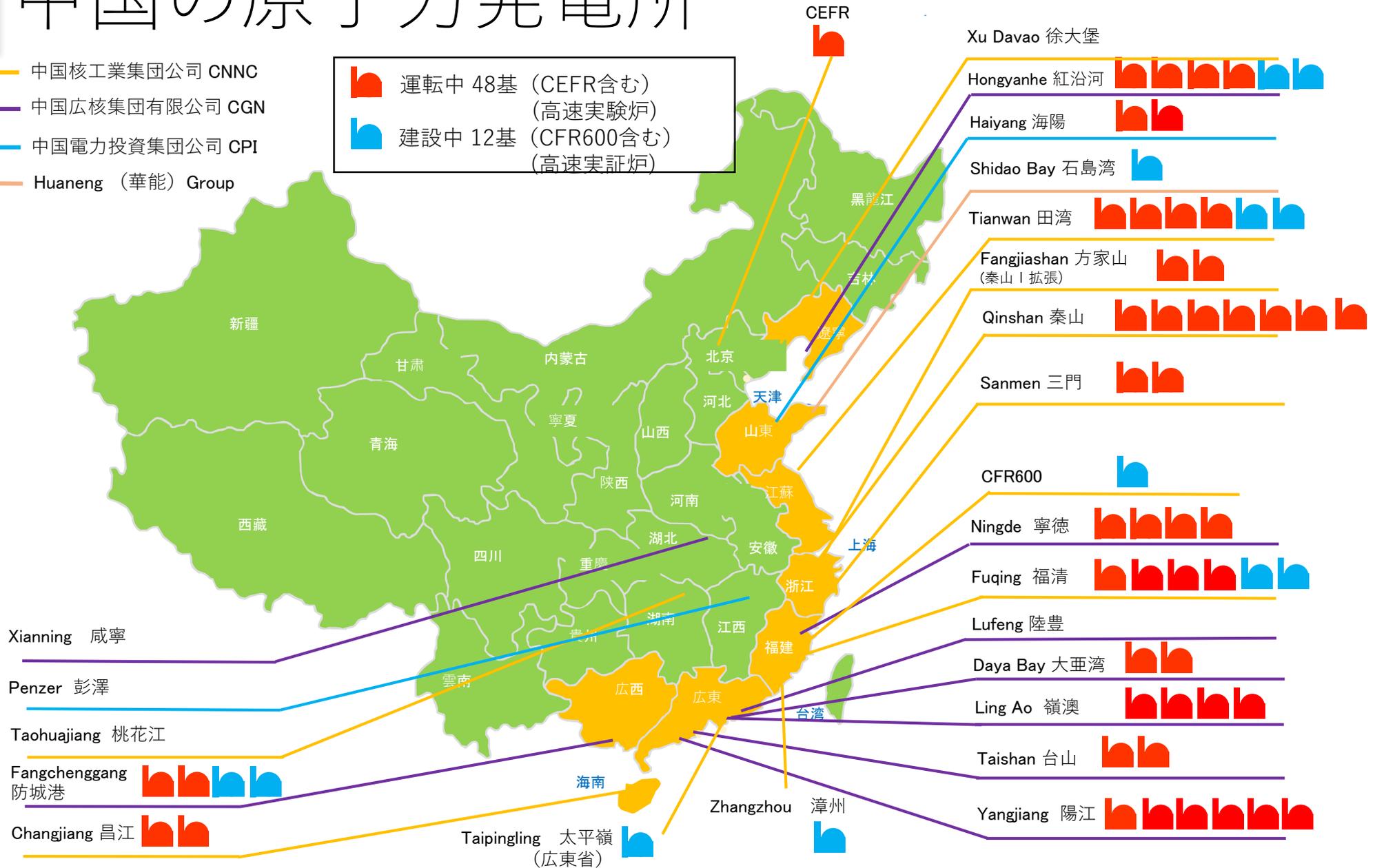
* 黒鉛減速沸騰軽水圧力管型炉の小出力炉



中国の原子力発電所

- 中国核工業集团公司 CNNC
- 中国広核集团有限公司 CGN
- 中国電力投資集团公司 CPI
- Huaneng (華能) Group

 運転中 48基 (CEFR含む)
 (高速実験炉)
 建設中 12基 (CFR600含む)
 (高速実証炉)



出典: IAEA, JAIF「世界の原子力発電開発の動向2019」等を基に作成。2020年3月1日現在





中国（2基送電開始 2基着工）

2019年

- ・ 6月23日 台山2号機、送電開始
（EPRとして世界で2基目、営業運転開始9月7日）
- 6月29日 陽江6号機、送電開始
（ACPR* 仏の技術をベースに国産化した第三世代炉、
営業運転開始7月24日）
→運転中、計47基、約4,500万kWに
- ・ 10月16日 漳州1号機、着工（HPR1000 <華龍一号>）
- ・ 12月26日 太平嶺1号機、着工（HPR1000 <華龍一号>）
* 中国が独自開発した第3世代のPWR
海外輸出向け原子炉、現在パキスタンで2基建設中



台山2号機

©TNPJVC



陽江原子力発電所

©CGN



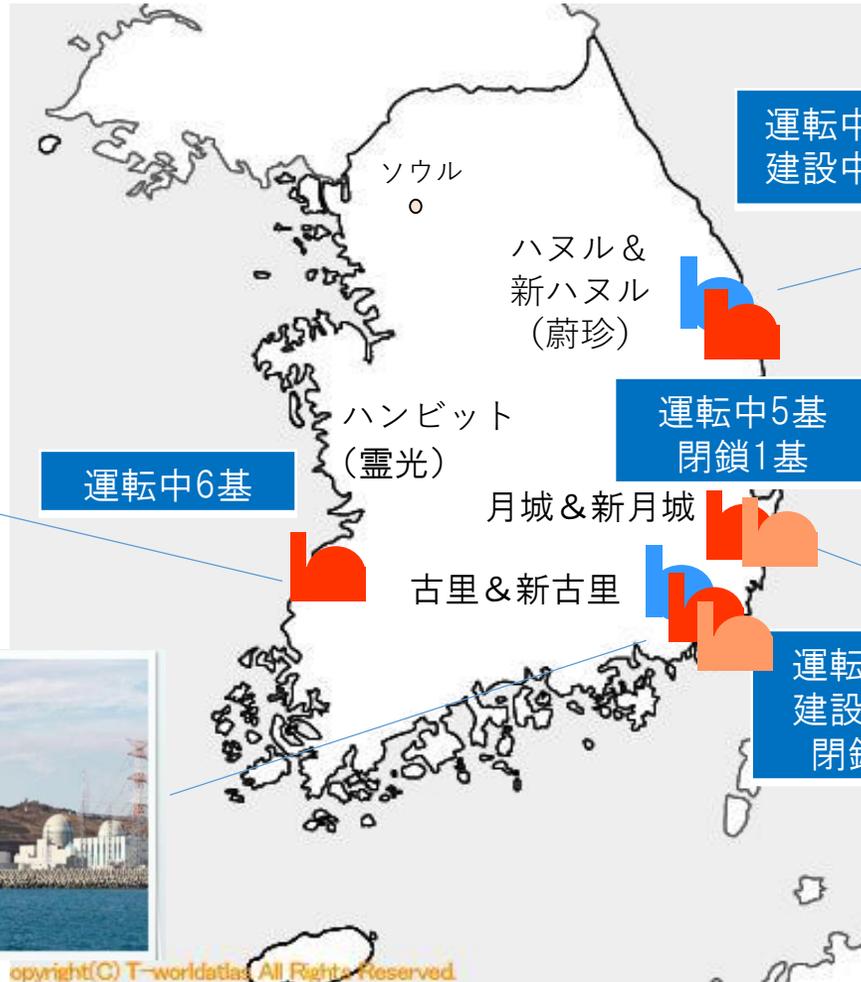
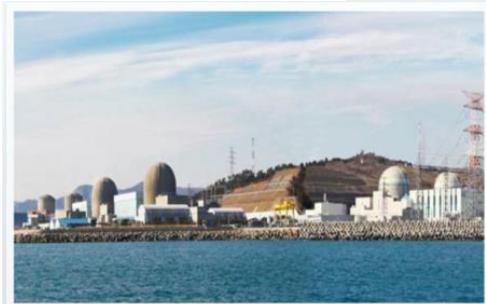
漳州1号機

©CNNC



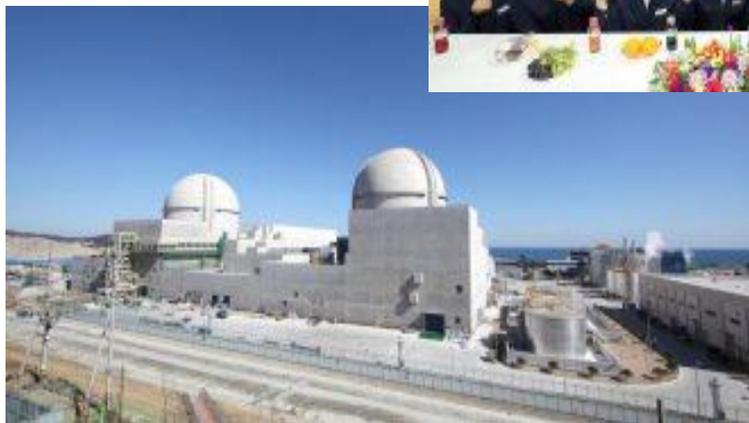
韓国の原子力発電所

運転中		24基	2323.1万kW
建設中		4基	560.0万kW
閉鎖		2基	126.6万kW





韓国（1基が送電開始 1基が閉鎖）



韓国で2番目となるAPR1400の新古里4号機
（8月29日営業運転開始）

同型の原子炉が4基、UAEに輸出され、現在建設中。
APR1400は、元々は米コンバッション・エンジニアリング社が開発した「システム80+」設計がベース



国の方針に沿って閉鎖された月城1号機(12月24日閉鎖)
2022年まで運転可能だった



イラン（1基が着工）



ブシェール2号機（VVER-1000）の着工（11月10日）
2024年の完成予定

© イラン原子力庁



米国（世界最大の原子力発電国）



運転中	96基	9,789.6万kW
建設中	4基	500.0万kW
計画中	3基	255.0万kW

出典: WNA





米国 (2基が閉鎖)



ピルグリム原子力発電所
(5月31日閉鎖)

© エンタジー社

ピルグリム、TMI1号機ともに60年運転の認可を取得していたものの、経済性を理由に早期閉鎖。ピルグリムは2032年6月まで、TMI1号機は2034年4月までの運転がそれぞれ認められていた



TMI1号機
(9月20日閉鎖)

© NRC/エクセロン社



ターキーポイント3,4号機で2回目の
運転期間延長認可取得(12月4日), 全米初の80年運転へ



3号機は2052年7月まで、4号機は2053年4月まで運転可能



2度目の運転期間延長(80年運転)認可取得済/申請中/申請予定 の原子力発電所

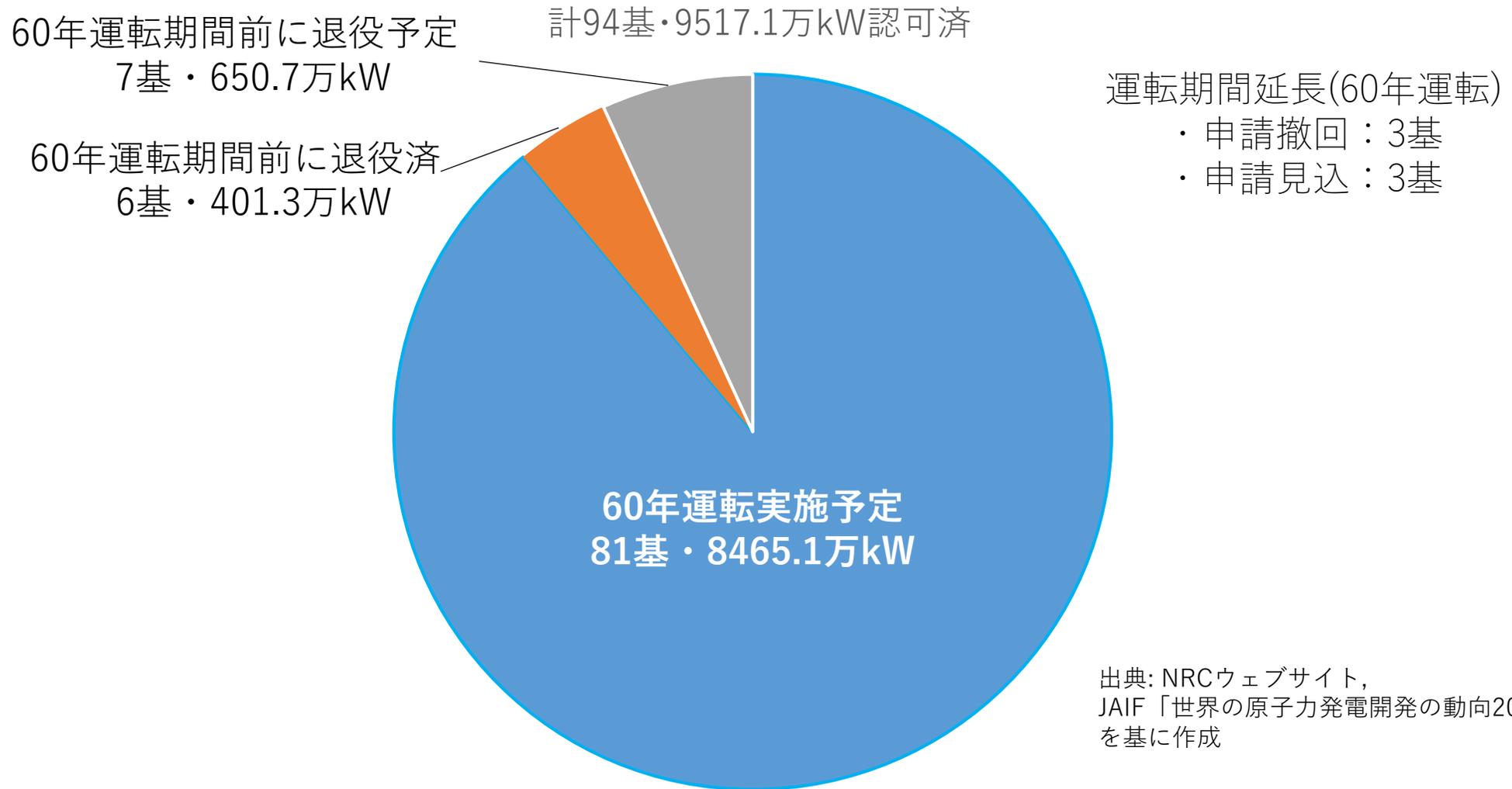
4基・388.4万kWが認可取得済。2基・175.0万kWが申請中
さらに2020年に2基・199.2万kW、2021年に3基・266.7万kWが申請予定

発電所名	炉型	グロス出力 (万kW)	所有者	運転開始年	申請年月	認可日
ターキーポイント3	PWR	76.0	FPL	1972	2018年1月	2019年12月5日
ターキーポイント4	PWR	76.0	FPL	1973	2018年1月	2019年12月5日
ビーチボトム2	BWR	118.2	エクセロン/PSEG	1974	2018年7月	2020年3月6日
ビーチボトム3	BWR	118.2	エクセロン/PSEG	1974	2018年7月	2020年3月6日
サリー1	PWR	87.5	ドミニオン	1972	2018年10月	
サリー2	PWR	87.5	ドミニオン	1973	2018年10月	
ノースアナ1	PWR	99.8	ドミニオン	1978	2020年10~12月(予定)	
ノースアナ2	PWR	99.4	ドミニオン	1980	2020年10~12月(予定)	
オコニー1	PWR	88.7	デューク	1973	2021年10~12月(予定)	
オコニー2	PWR	88.7	デューク	1974	2021年10~12月(予定)	
オコニー3	PWR	89.3	デューク	1974	2021年10~12月(予定)	

出典: NRCウェブサイト, JAIF 「世界の原子力発電開発の動向2019」 を基に作成



米国 運転期間延長(60年運転)をした原子力発電所



2020年1月現在、94基の原子力発電所が運転期間延長済(60年運転)認可後、経済性等を理由に、閉鎖に追い込まれている原子炉もある



スウェーデン



スイス



ドイツ
(各1基が閉鎖)



リングハルス原子力発電所

2号機が12月31日に閉鎖。1号機は2020年閉鎖予定
3,4号機はそれぞれ2041年、2043年まで運転継続予定

© ヴァッテンフォール社



12月20日に閉鎖された
シングルユニットの
ミュレベルグ原子力発電所
© ENSI



35年間運転し12月31日に閉鎖したフィリップスブルグ2号機
国の方針により、残る6基も2022年までに順次閉鎖される

© EnBW



台湾（1基が閉鎖）

- ・ 2020年1月の総統選挙で反原子力の蔡英文氏が再選、「非核家園」（原子力発電のないふるさと）を掲げ、再エネの積極的な推進を主張
- ・ 建設凍結中の龍門原子力発電所の建設再開の是非を問う住民投票について、**2021年8月28日実施が決定**



閉鎖された金山原子力発電所

1号機は2018年12月5日、2号機は2019年7月15日に閉鎖
廃炉の基本方針は「即時解体」



	： 運転中	4基
	： 建設中	2基
	： 閉鎖	2基



ほぼ完成状態の龍門原子力発電所
(ABWR×2基)
主契約者はGEだが、
主要機器は日本製



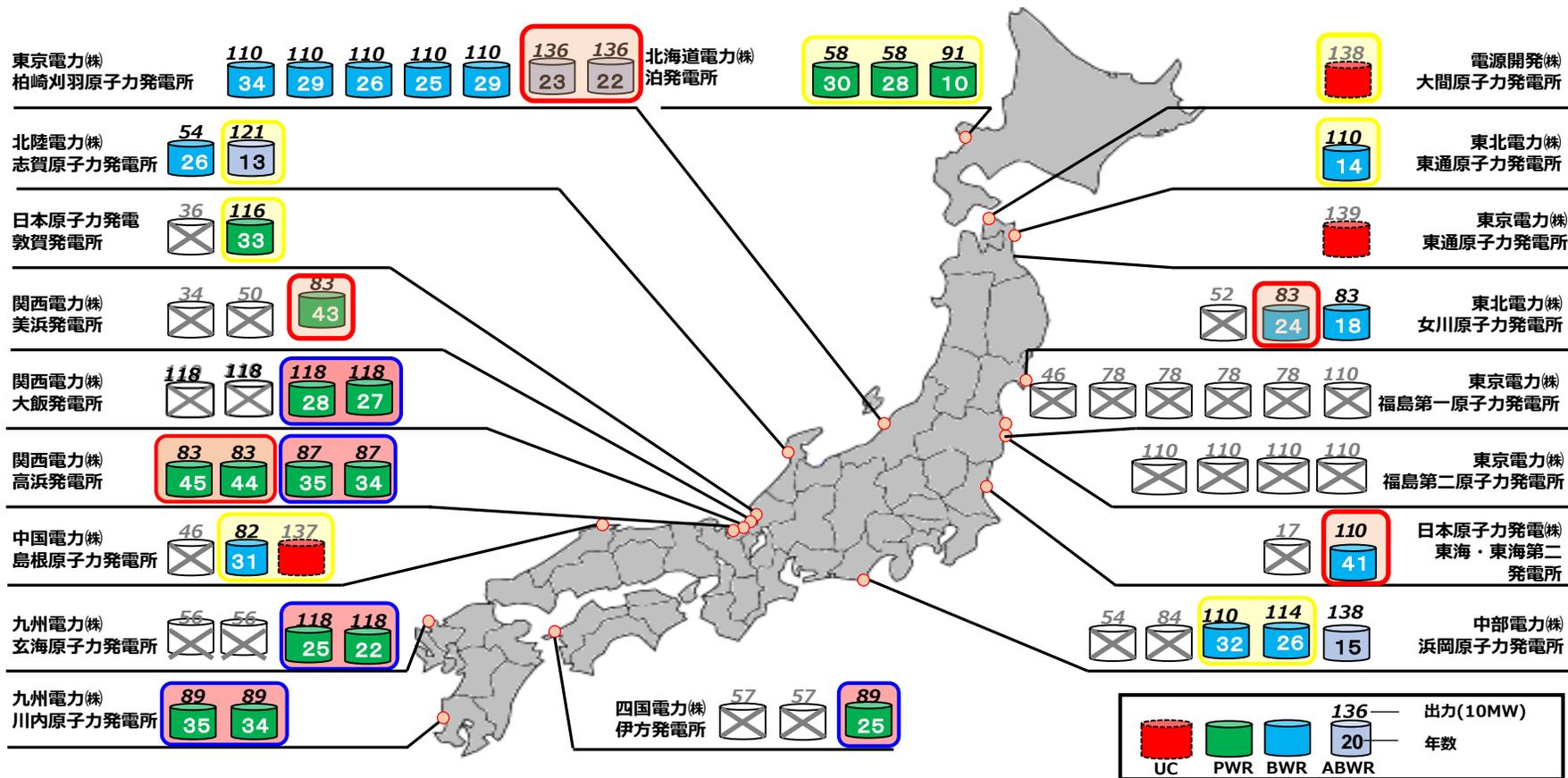
日本の商業原子力発電所の状況

稼働中
9 基

原子炉設置変更
許可済
7 基

新規規制基準への
適合性申請中
11 基

廃炉決定済
24 基



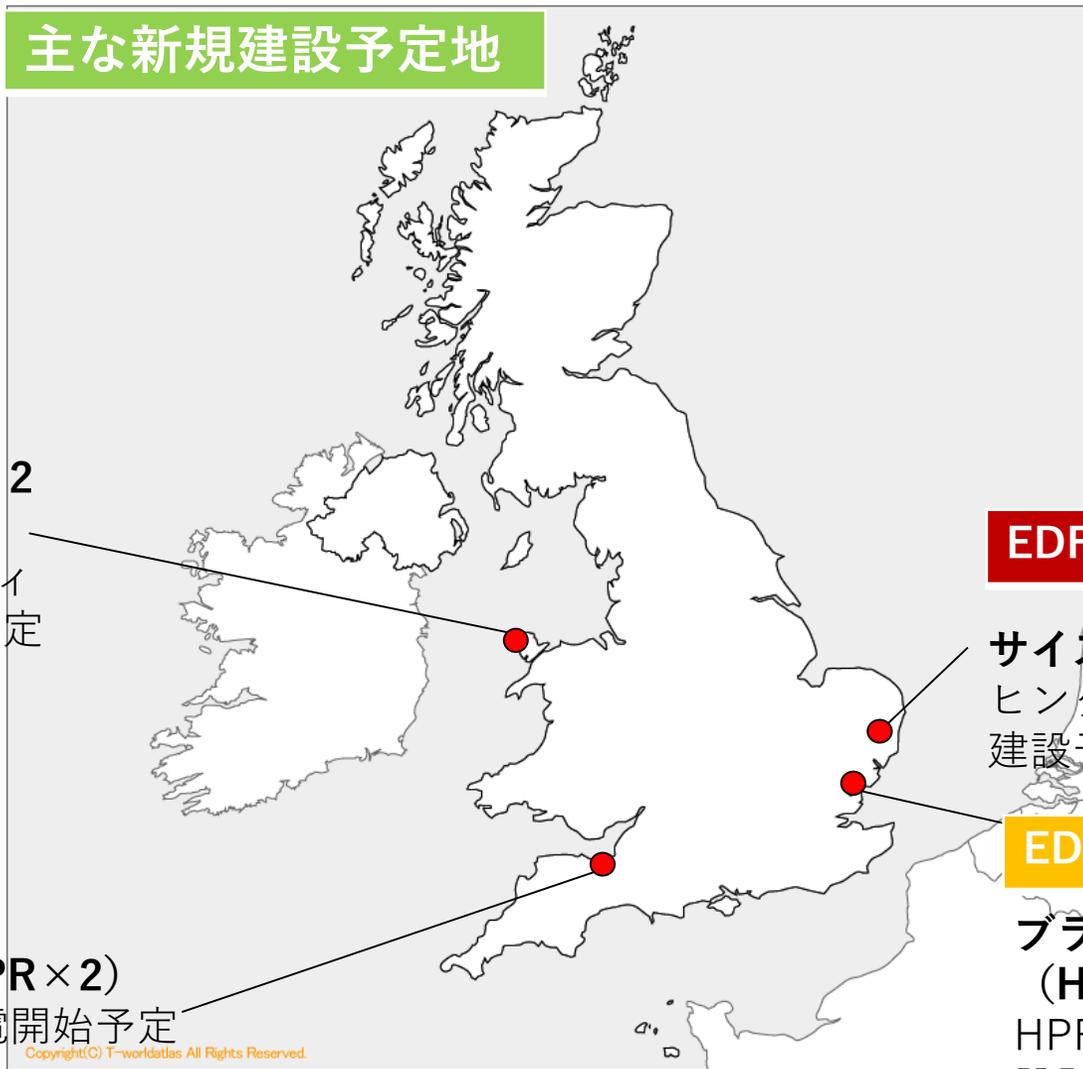
*2020年3月1日現在

出典: 経済産業省, 日本原子力産業協会



英国 (原子力は将来のエネミックスで重要な役割)

主な新規建設予定地



★2019年6月、
2050年までに温室効果ガス排出実質ゼロの
目標を法制化
——主要先進国で初

ホライズン

ウィルヴァ・ニューウィッド1, 2
(ABWR×2)

ホライズン社は2019年1月、ウィルヴァでの作業の一時中止を決定

EDFエナジー

ヒンクリー・ポイントC1, C2 (EPR×2)

1号機は2018年着工、2025年に送電開始予定

2号機は2019年着工

EDFエナジー

サイズウエルC1, C2 (EPR×2)

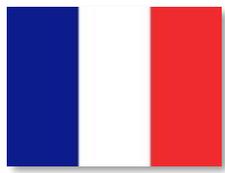
ヒンクリー・ポイントCのレプリカ
建設予定

EDFエナジー & 中国広核集団

ブラッドウェルB1, B2
(HPR1000×2)

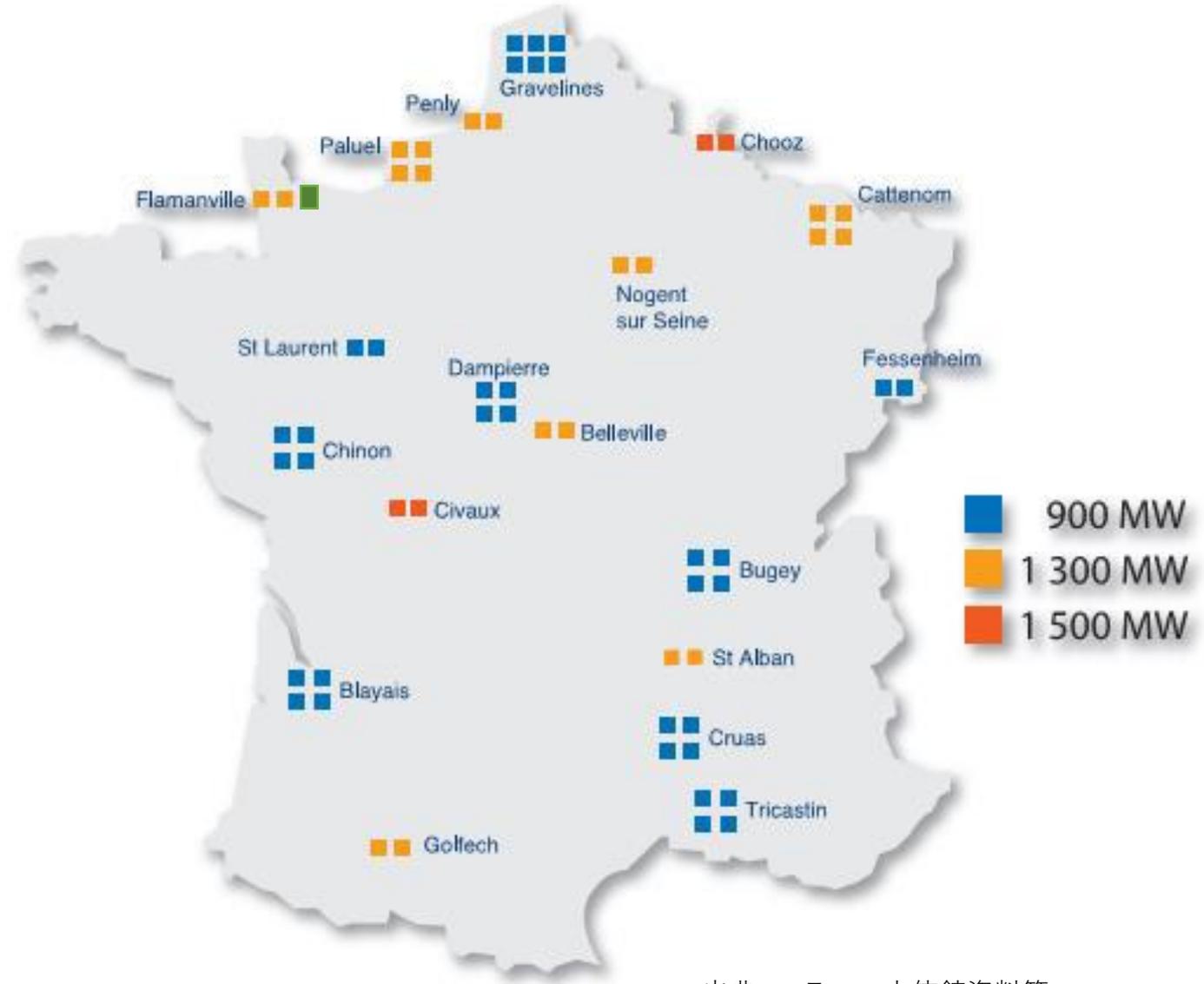
HPR1000 (華龍一号) の包括的
設計審査 (GDA) が進行中

Copyright(C) T-worldatlas All Rights Reserved.



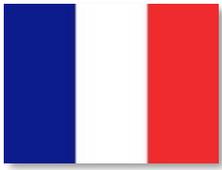
フランス（原子力シェア世界一）

- 原子力発電量シェア：71%（世界最高）
- 平均運転年数：35年
- 今後22基が2025年までに長期運転50年に向け、4回目の運転認可更新(10年)申請予定



運転中（58基）		
PWR	90万kW級	■ 34基
PWR	130万kW級	■ 20基
PWR	145万kW級	■ 4基
建設中		
EPR	1,630 MW	■ 1基

出典：フランス大使館資料等



フランス

◆エネルギー移行法(2015年) 電力供給ミックスにおける主な目標

原子力発電設備	上限 6,320万kW (現状規模に抑制)
原子力シェア	2025年 50% (現在2035年までに達成時期を変更)
再生エネシェア	2030年 40%

◆2019～2028年 エネルギー多年度計画案(PPE)

2020年中に閉鎖される
仏最古のフェッセンハイム原子力発電所

(2020年1月20日発表、パブコメ期間:1か月)
2035年までに原子力発電比率50%の目標達成
ー2035年までに14基(90万kW級)を閉鎖
(フェッセンハイム2基含む)

- ※ 新規建設オプションは継続検討
- 核燃料サイクル戦略は堅持
- MOX利用は130万kW級炉で実施
(閉鎖される90万級炉の代わり)



1号機は2月22日に閉鎖。2号機は6月に閉鎖予定 ©ASN

中東欧での新規計画の動き



チェコ

4基計画中
(テメリン3,4
ドコバニ5,6)



ポーランド

原子力発電所計画中 (2ヶ所)
高温ガス炉導入を検討



ルーマニア

チェルナボーク3,4号機計画
(CANDU)
中国との建設協力は解消の見込み



ハンガリー

パクシュ5,6号機
(VVER-1200)
計画中
5号機は2020年に着
工予定



ブルガリア

ベレネ原子力発電所建設プロジェ
クト (VVER-1000×2基) の潜在
的戦略投資家に5社(Rosatom,
CNNC, KHNP, Framatome, GE)
を選定

新規導入国の動き(建設中)～UAEとベラルーシが2020年に発電開始予定～

バン格拉デシュ・ルプールサイト
(1号機:2023年/2号機:24年運開予定) @ロスアトム



ベラルーシ・オストロベツ原子力発電所
(1号機:2020年運開予定) ©ASE



UAE・バラカ原子力発電所
(1号機:2020年運開予定) ©ENEC



トルコ・アックユサイト
(1号機:2023年運開予定) ©ロスアトム

世界の原子力開発状況：新規導入国

地域	国	建設中		計画中		提案（検討）中	
		基	万kW	基	万kW	基	万kW
アジア	タイ	0	0	0	0	2	200.0
	バングラデシュ	2	240.0	0	0	2	240.0
中東	サウジアラビア	0	0	0	0	16	1,700.0
	トルコ	1	120.0	3	360.0	8	950.0
	UAE	4	560.0	0	0	0	0
	ヨルダン	0	0	0	0	1	100.0
アフリカ	エジプト	0	0	4	480.0	0	0
欧州	ウズベキスタン	0	0	2	240.0	2	240.0
	カザフスタン	0	0	0	0	2	60.0
	ベラルーシ	2	238.8	0	0	2	240.0
	ポーランド	0	0	0	0	6	600.0
	リトアニア	0	0	0	0	2	270.0
合計	12か国	9	1,158.8	9	1,080	43	4,600

出典: WNA, 2020年1月現在

世界の原子力開発状況：新規導入国

